

外国人留学生に対する動機づけ教材の作成へ向けて

— 来日直後の留学生の生活状況とのかかわりで —

平 田 歩

1. はじめに

1983(昭和58)年、政府によって「留学生受入れ10万人計画」が提唱され、文部省(現 文部科学省)は積極的な留学生受入れ策を図りはじめた。「留学生」とは、一般的に「大学もしくはこれに準ずる機関などで教育を受ける外国人」とされ、入管法で規定された在留資格が「留学」となっている者をいう。彼ら「留学生」は新規に海外から「留学」の資格をもって入国する者と、まず「就学生」として来日し、日本語学校などで日本語を習得後、大学に進学し、在留資格の変更で「留学生」になった者とに分けられる。しかし、この「留学生」と「就学生」の新規入国者数に、10年ほど前から変化が見られるようになった。表1(*1)に示すとおり1994年を契機に留学生と就学生の新規入国者数に大きな差が見られなくなってきたのである。むしろ数値的に逆転している年もある。これは、就学生の資格審査が厳格化されたことによるものだと考えられている。

「留学生受け入れ10万人計画」から20年がたった今、日本国内に在住する外国人留学生の数は10万人を突破した。[表2参照(*2)]そしてここ1、2年は様々な緩和政策により「就学生」「留学生」の新規入国者が急増している。

本稿では、日本語学校から進学してきた留学生と、海外から新規に留学生として入国し、大学に入学してきた留学生との間に、どのような相違があるかを明らかにし、日本での生活が初めてである留学生が来日直後からスムーズに留学生活を送ることができるようにするには、来日前、或いは入学前に何が必要なのかを考察し、留学生が異国で始める学生生活の動機づけになるような教材開発の参考としたい。

表1 「留学及び就学資格」新規入国者数の推移

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
留 学	5,419	5,812	6,435	7,777	9,528	9,620	10,368	10,722	10,337
就 学	12,639	13,925	35,107	18,183	20,851	20,654	27,367	18,127	11,947
年度	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	
留 学	10,155	11,717	12,408	13,478	14,446	19,503	23,416	24,730	
就 学	9,928	9,436	11,755	14,540	19,426	22,404	23,932	25,948	

表 2 「留学」の外国人登録者の推移

年 度	平成 10 年 (1998)	平成 11 年 (1999)	平成 12 年 (2000)	平成 13 年 (2001)	平成 14 年 (2002)
総 数	59,648	64,646	76,980	93,614	110,415

2 調査の目的と概要

① 目的

留学生は来日前、或いは大学入学前に日本や日本語、さらにこれから始まろうとしている日本での生活に対して、どのような下調べや事前学習をしてきたのだろうか。留学生が「来日前に勉強しておけばよかった」と思うことや「これをしておけば日本での生活に役に立ったのに」と思っていることを明らかにし、そのようなことをまとめた教材で入学前の学習ができれば、多少はスムーズに留学生活が始められるのではないかと考えた。そのためにも来日前、或いは入学前の日本や日本での生活に対する認識と、実際の生活の中で感じることや考えていたこととのギャップを明確にし、これを基に今後、日本で生活を始める留学生の動機づけともなり得るような教材の作成の参考としたい。

② 対象者

山口県 A 大学・同大学短期大学部 2003 (平成 15) 年度入学外国人留学生 計 34 名

(ただし、長期・短期研修生、交換留学生、大学院生、研究生、聴講生は除く。)

入学経緯・国籍 学 年	海外からの直接入学				日本国内からの入学			
	台湾	中国	韓国	合計	台湾	中国	韓国	合計
大学 1 年 生	—	5	3	8	1	4	1	6
大学 3 年生(編入学)	—	—	6	6	—	1	3	4
短大 1 年 生	—	7	3	10	—	—	—	—
合 計	—	12	12	24	1	5	4	10

注)・「海外からの直接入学」とは海外の日本語教育機関や短期大学から入学、3 年次編入学した者を示す。

・「日本国内からの入学」とは日本国内の日本語教育機関や短期大学などから入学、3 年次編入学した者を示し、また日本での滞在期間は 1 年の者が 1 名でこれ以外の 9 名は 2 年となっている。

③ 調査期間と方法

- ・予備調査 2003 年 6 月 インタビューによる聞き取り調査
- ・本調査 2003 年 7 月 アンケート用紙配布による調査。(記述式)

④ アンケートの内容

アンケートによる本調査表を作成するにあたり、予備調査として対象者となる留学生にインタビューによる聞き取り調査を行った。その時に聞き取った内容は以下のとおりである。参考まで

に各回答に留学生の国籍も書き添えておく。

a. 気候に関すること

- 四月なのに、日本では花がたくさん咲いていて驚いた。(中国)
- 日本は家の中が寒い。(韓国)

b. 天気に関すること

- 日本は雨が多い。(韓国)
- 一度にたくさんの雨が降る。(中国)

c. 地理に関すること

- 道路が複雑で迷いやすい。(中国)
- 坂が多い。(中国)

d. 交通に関すること

- バスの時刻表がある。(韓国・中国)
- バスがゆっくり走って安全。(韓国)
- 道路に減速のための段差がない。(韓国)

e. 日本の生活や習慣に関すること

- 日本では生野菜をたくさん食べる。(中国)
- 知らない人に道を聞いても、親切にそこまで連れていってくれる。(韓国・中国)
- なくしたものが戻ってくる。(韓国)
- 果物の値段が高い。(韓国・中国)
- 街を歩いている人が少ない。(中国)
- 道がきれい。(中国)

f. マナーに関すること

- 日本人は時間を守る。(中国)
- 寮や学校の中でもよくあいさつをする。(韓国・中国)

g. 日本の若者に関すること

- 男性が女性のような持ち物(かばんなど)を持っている。(中国)
- 髪を染めている男性が多い。(中国)
- 若者がバスなどで老人に席を譲らない。(韓国)
- 街の中に若い人があまりいない。(中国)

以上、留学生から聞き取ったことを基に以下のアンケート用紙を作成した。項目は大きく〔生活編〕と〔学校編〕とに分け、〔生活編〕では、日本と大学の所在地であるS市に関する質問をそれぞれ取り上げた。

【外国人留学生へのアンケート】

留学生の皆さんが来日前にどんなことを習ってきたか、どんなことがわかった上で日本に来たかを教えてください。

日本在住歴()年()か月 性別(男性・女性) 出身国()

大学に入学する前はどこで勉強していましたか。〔例：日本語学校など〕

() S市在住歴()年()か月

〔生活編〕

1. 日本に来る前、日本語以外で日本について勉強したり、調べたものがありますか。
a. 気候 b. 天気 c. 地理 d. 交通 e. 日本の習慣 f. マナー
g. 日本の若者について h. 日本人とのつきあい方について i. あいさつ
◆具体的にどんなことをしたか書ける人は書いてください。
2. 日本にきて生活する上で大変だったことは何ですか。
3. 国にいるとき、日本について知っておいた方がよかったと思うことは何ですか。
4. 日本に来てよかったことは何ですか。
5. S市に来る前、日本語以外でS市について勉強したり、調べたものがありますか。
a. 気候 b. 天気 c. 地理 d. 交通 e. 大学の場所
f. 大学の住所を覚えた g. 物価 h. 生活面について
◆具体的にどんなことをしたか書ける人は書いてください。
6. S市にきて生活する上で大変だったことは何ですか。
7. 国にいるときS市について知っておいた方がよかったと思うことは何ですか。
8. S市に来てよかったことは何ですか。

〔学校編〕

1. 日本の大学での授業は入学前に想像していたことと同じでしたか。
2. 大学に入ってよかったことは何ですか。
3. 学校に来て、授業のない時間にどんなことをしていますか。
4. 休日は何をして過ごしていますか。
5. 日本語学校や国で勉強したことが役に立っていますか。
* どんないことが役に立っていますか。
6. あなたの知り合いがこれから日本の大学に行こうとしています。
あなたはその人にどんなアドバイスをしますか。

3. アンケートの結果から

3-1 〔生活編〕

この項目では、入学前にどのくらい日本語を勉強してきたかということには一切触れず、来日するにあたり日本語以外でどのような下調べをし、日本での生活に備えたかということについて尋ねた。尚、表中の数字はそれぞれ、入学者の合計に対する人数とその割合を示している。

1. 日本に来る前、日本語以外で日本について勉強したり、調べたものがありますか。	海外からの直接入学	日本国内からの入学
	計 24 名	計10名
a. 気候	6 (25%)	2 (20%)
b. 天気	6 (25%)	3 (30%)
c. 地理	6 (25%)	2 (20%)
d. 交通	4 (17%)	2 (20%)
e. 日本の習慣	10 (41%)	5 (50%)
f. マナー	4 (17%)	2 (20%)
g. 日本の若者について	4 (17%)	1 (10%)
h. 日本人との付き合い方について	7 (29%)	1 (10%)
i. あいさつ	12 (50%)	4 (40%)

海外からの新規入学者は全員で 24 名いるが、i の「あいさつ」以外は国で事前学習してきたという留学生が半分にも満たない。国内から入学してきた留学生の場合、新規に来日したのが 1 年～2 年前になるということもあり、来日当時の記憶が定かでないということがあるにしても、新規入国時には上記のようなことについては知らなかったということになる。ここに取り上げた a～i の項目は、これから留学しようとしている国についての基本的な情報であると思われるが、意外に学生たちはこれらのことを知らないまま来日していたのである。

2 では、海外からの直接入学者の場合、「日本人との考え方の違い」「勉強とバイトの両立」

「日本人との会話」「交通ルール」「物価が高い」という回答が目立った。特に、「消費税の負担」や「交通費の高さ」を訴えた留学生が多かった。また、「人間関係」という回答も多く、留学生達が日本人との付き合いに戸惑いや不安を持っているということも窺えた。

3 は日本について少しでも事前学習しておけばよかったと思うことについて尋ねたものであるが、日本国内から入学してきた留学生のほとんどが「日本でのマナー(礼儀)」「日本人の考え方」と記入していた。新規に入学した留学生に比べ日本での滞在も長く、様々な場面で困った経験や人間関係で悩みを抱えたことがあるのか、現実に直面しての後悔の思いがこの回答に表れているのではないかと考えた。

一方、海外からの入学者はというと、多少日本国内からの入学者と重なる部分はあるものの、1 年生では、「いろいろな場面でのあいさつ」や「日本語」というような基本的な事柄に対する回答が多かった。3 年生では「日本の歴史」「日本文学の知識」など自分の専門分野に関する事柄が目立ち、入学直後から専門的な知識の必要性に迫られていたことが窺える。

4 は海外、国内いずれの入学者も「日本語が上達した」と答えた留学生が最も多かった。更に中国人留学生の場合「独立する」「生活能力が強くなった」「自立した生活ができるようになった」と言う回答が多く、精神的にも経済的にも自立しようと努めていることが強く感じられた。

5以降はS市についての問いである。先の「1. 日本に来る前…」の項目とは多少内容を変えている。また、表中の数字はそれぞれ、入学者の合計に対する人数とその割合を示している。

5. S市に来る前、日本語以外でS市について勉強したり、調べたものがありますか。	海外からの直接入学	日本国内からの入学
	計 24 名	計 10 名
a. 気候	1 (4%)	1 (10%)
b. 天気	4 (17%)	1 (10%)
c. 地理	2 (8%)	1 (10%)
d. 交通 (バスの乗り方や料金)	—	1 (10%)
e. 大学の場所	5 (21%)	—
f. 大学の住所を覚えた	1 (4%)	—
g. 物価	1 (4%)	2 (20%)
h. 生活面について	3 (13%)	1 (10%)

*表中の「—」は回答者がいないことを示す。

この問いに対する回答は、学年による相違が明らかであった。上記に示した数値はほとんどが3年生のアンケートから得たものである。国籍を問わず、1年生からはほとんど回答が得られなかった。3年生はインターネットなどを利用し、大学のホームページなどを見て、主に学校周囲の環境などを調べたという記述があった。

6は学年、国籍、入学経緯によって様々な回答が表れた。まず、海外から直接入学した中国人留学生（1年生）からは「物価が高い」「寮の生活に慣れない」「食事が合わない」「言葉」「勉強とバイトの両立」など、先にみた「2」の回答と重複するものもあるが、今まで自国で生活していた環境との相違が大きく、日本での生活になかなか慣れず、多少苦勞しているように感じられた。一方、同じ中国人留学生でも、日本国内から入学してきた学生にはこのような回答は見られない。彼らからは「交通が不便」という回答が多く、これは、それまで生活の拠点としていた街がS市よりも大きく、交通も便利であったことによるものではないかと考えられる。

同項目について韓国人留学生の場合は、学年を問わず「田舎なので交通や買い物不便である」という回答が複数みられた。学生達の出身地は韓国国内でも比較的大都市であることからこのような答えが出たものと考えられる。また、アンケート調査時にゴミの分別が厳しくなったということもあり「ゴミの分別が大変」という回答も目立った。地理的にも日本に近く、生活面においても似ている部分が多いからか、韓国の学生の方が日本での生活に適応するのが早く、あらゆる面で違和感なく溶け込むことができているように思われる。

7は「交通について」「環境」という回答が多かった。しかし、新規に入国している中国人留学生（1年生）からは「あまり知らなくても難しくない」という予想外の回答も数件あり、広い大陸からきた学生達の楽観的で悠々とした部分が垣間見られた。

8は「海が近くで見られる」「木が多い」（中国）、「東京などよりは物価が安い」「国と近くて便利」（韓国）など、やはり国籍での相違が明確に表れていた。また、すべての留学生に共通した回答は「人が親切」「街がきれい」「静か」「気候がちょうどいい」となっており、都市の規模は小さいが勉強するにも、生活するにも快適であると感じているように窺えた。

3-2〔学校編〕

ここでは主に大学生生活や授業のない時の過ごし方などを尋ねた。

1の「日本の大学の授業が入学前に想像していたことと同じであったか」という問いに対して、ほとんどの留学生が「想像よりも大変」「難しい」と答えていた。これは事前に予想できた回答である。日本語力があるだろうと思われる学生でも同様の答えを書いていた。

2は全体的に友達など、人との出会いをうれしく思うことと、日本語の上達をあげている留学生が多かった。

3、4は留学生の特徴を表すようなものはなく、「スポーツ」「読書」「コンピューター」「おしゃべり」「のんびりする」「勉強」など複数回答した留学生がほとんどであった。

5では日本語の勉強に関する回答が多かった。具体的には「国にいる時、日本人と話した経験があったこと」「ニュースなど毎日少しでも日本語を耳にする習慣があったこと」などである。

6では「まず日本語を上達させて来ること」という回答が圧倒的で、中でも「漢字・文法・単語・作文」を勉強しておいた方よいという答えが見られた。やはりそれだけ日本語力の必要性を感じているということがわかる。また「自信をもつこと」「強い心」「明確な目標」と書いた留学生も数名いたがこのような記述をしている学生は比較的、日本語の勉強をしっかりとってきている学生達であった。

4. まとめと課題

今回、調査対象となった留学生数だけで、留学生全体の把握ができるものではない。また、国内の日本語教育機関を経て入学している留学生と海外から入学している学生との割合も違うため比較することに無理があったかもしれないが、国籍や学年、入学経緯の違う留学生達の生の声がわずかでも得られたことは貴重であった。国での習慣や物の考え方によって、日本での生活に慣れるのに時間がかかったり、学年があがるほど、ある程度の下調べをして来日しているということもわかった。また中国人留学生でも特に日本国内から日本語学校などを経て入学した者は、これまで経験してきたことを一つ一つしっかりと受け止め、現在の留学生としての生活に自分自身でフィードバックしているなどの実情がわずかながら窺えた。幸い、この調査では「日本にきて大変だったこと」として「ホームシック」をあげている留学生は一人もいなかった。しかし、学生達がホームシックになっていないわけではなく、すでに一番苦しんだ時期を乗り切った後だっ

たことも書き添えておきたい。また、日本での留学生活に日本語能力は不可欠であるが、日本語能力があるからといって日本での生活に支障がないわけではない。特にその地域の情報や大学内で使用する用語については現実に直面しなければわからないことである。しかし、海外から直接入学する留学生が増えても、このようなことに対応した市販の補助教材はほとんどないというのが現状である。そこで、特に海外から直接入学する留学生に対しては学生が生活する地域の情報や大学内で使う語彙・会話などの事前学習、さらには来日してからは困ったときの手引きとなるような教材があれば、より正確に日本での生活や勉強内容が認識できるのではないだろうか。

今後、海外・国内を問わず入学してくる留学生達の入学前の学習教材に、今回の調査で得たものを活用し役立てたいと考えている。

(注) * 1、* 2は「出入国管理統計概要」(財)入管協会(2002)より抜粋。

《参考文献・資料》

- ・守山恵子、永井智香子、松本久美子 「留学生の求めていること——研修コース修了生インタビュー調査報告——」『長崎大学留学生センター紀要第8号』(2000)
- ・守山恵子、永井智香子、松本久美子 「留学生を取り巻く環境の改善へ向けて——『長崎大学留学生の修学・生活実態調査報告』から明らかになったこと——」『長崎大学留学生センター紀要第9号』(2001)
- ・関口明子 「地域に在住する外国人への日本語支援者用教材システム『リソース型 生活日本語』の概要」『平成15年度文化庁日本語教育大会(東京大会)研究協議会予稿集』(2003) 文化庁文化語課
- ・中央教育審議会大学分科会留学生部会 中間報告「新たな留学生政策の基本的方向について——交流の拡大と質の向上を目指して——」(2003) 文部科学省 <http://www.next.go.jp>
- ・中央教育審議会大学分科会留学生部会 (第8回)「平成14年度日本語教育機関実態調査の概要」(2003) 文部科学省 <http://www.next.go.jp>
- ・留学交流事務研究会 「日本語教育機関卒業後の進学者の内訳」『留学交流執務ハンドブック 平成14年度』(2002) 第一法規